

木造都市研究会 **木愛の会** 主催

13周年総会 記念シンポジウム

木の連歌

シリーズ part14

木造都市研究会「木愛の会」は、名古屋を拠点に研究会や見学会、提案など、木造都市実現に向けた様々な活動を行っています。会員募集中。

<http://www.kiainokai.net/>

木の連歌シリーズは、毎回異なる講師をお招きし、それぞれの木に対する思いや作品・研究をご紹介頂き、連歌方式で次の講師に引き継いでいく研究会です。初回の谷篤子氏にはじまり、武藤隆氏、田中英彦氏、鵜飼哲矢氏、清水秀丸氏、藤岡伸子氏、東海林修氏、米澤貴紀氏、松田和浩氏、山崎真理子氏、古川忠稔氏、関本竜太氏、村上心氏と「木と建築」に関わる多くの優れた建築家や研究者をお招きしてきました。第14回目となる今回は、木愛の会13周年総会の記念シンポジウムとして、建築構法学の権威でいらっしゃる深尾精一先生にご講演頂きます。学生・会員外の方を含め、是非ご参加ください。

代表世話人 太幡英亮 (名古屋大学)

2019年12月16日(月)
18:00~19:30

丸美産業株式会社 会場
本社5階会議室

名古屋地下鉄桜通線 瑞穂区役所駅下車すぐ

参加申込先 木愛の会事務局
kiainokai@gmail.com

定員30名 (申込期限: 12月9日)

参加費 学生・会員: 無料 一般: 1000円

深尾 精一 氏

首都大学東京 名誉教授

利休の茶室は日本的空間か？
—日本の木造住宅の特質—

(主旨) 利休が創始したとされる、四畳半より小さな小間の茶室は、侘び寂びの極致として日本独自の空間であるとされている。しかし、16世紀末の安土桃山時代の堺の町は、南蛮人が往来する街であった。その時代に、利休はなぜ待庵のような囲いを創ったのであろうか。一方で、秀吉は黄金の茶室を造っており、そちらも画期的な空間である。建築の造り方の観点から、茶室の起源に関するちょっと大胆な仮説をご披露し、皆様に問うてみたい。

タイムスケジュール

17:30 木愛の会13周年総会 (会員のみ参加)

17:50 シンポジウム受付開始

18:00-19:00 深尾精一先生講演会

19:00-19:30 ディスカッション

20:00- 懇親会

(深尾先生ご経歴)

東京都生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、同大学院博士課程修了(工学博士)。東京都立大学助教授、同教授を経て大学改組により首都大学東京教授。現在、名誉教授。専門は建築構法学。主な作品に「繁柱の家」「実験集合住宅NEXT21(協働)」など。主な著書に「建築構法(市ヶ谷出版社・共著)」、「住まいの構造・構法」など。日本建築学会賞(論文)、日本建築学会作品選奨ほか多数受賞。

